

「地域における民国連携への取組をスタート」

地域課題の解決に向けた取組

網走西部森林管理署

豊富な森林資源を背景に、かつて林業で栄えた遠軽地域ですが、林業の衰退とともに人口も減少しています。

このため、かつて盛んであった林業の再生を図ることが地域の振興に資するものと考えます。

特に、当該地域の森林の7割強を占める国有林が民有林と協働した取組を行うことにより、その可能性はさらに高まると考えています。

しかしながら、これまで民有林は民有林で、国有林は国有林でそれぞれ取り組んでいることが多く、民有林と国有林が連携した取組はあまり進んでいない状況でした。

このため、地域の林業関係機関（北海道、地元自治体、森林組合、林業事業者等）と連携を図る体制の構築と情報の交

換・共有について、次に紹介する取組を始めることとしました。

①長年にわたり被害が発生していたカラマツハラアカハバチの食害状況調査に民有林と協働して国有林も取組むこととしました。

平成27年に、勉強会、予察調査実習を実施した上で、国有林での食害状

況調査を行い、そのデータと民有林のデータを集約し地域全体の食害情報の共有を図っています。

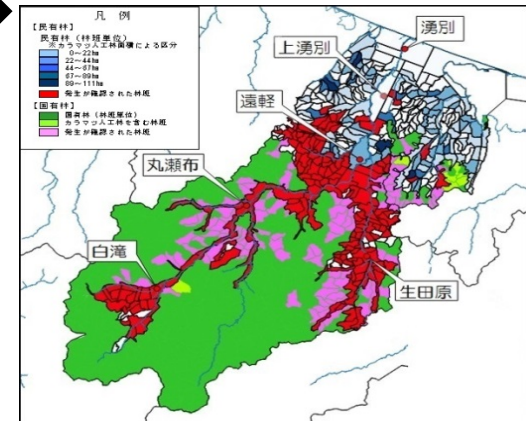


一貫作業システム現地検討会

②林業の再生を図る上で林業の低コスト化は重要な課題であることから、林業の低コスト化を図る手法の一つとして、当署において取り組んでいる「伐採から植栽までの一貫作業システム」について、現地検討会を開催し民有林関係者と情報交換を図っています。

③現在、地域林業の推進を図るための組織として、地域の林業関係機関で構成されている「林業推進協議会」と国有林が事務局となっている「森林・林業・木材産業活性化懇談会」の二つがあります。

配置、路網等の「見える化」を推進するため、森林管理署を含め地域の林業関係機関が集まり勉強会を継続して実施し、その活用について検討していくこととしています。



カラマツハラアカハバチ発生状況図



QGIS 勉強会

④QGISを活用し民有林と国有林の双方の森林

地域での民国連携はスタートを歩み始めたところですが、以上のような取組を進める中で、培われた民有林関係者との信頼関係をベースとし、今後地域課題を把握しながら、署全体の取組として課題解決に向けて取り組んでいく考えです。